

愛知学泉大学 「数理・データサイエンス教育」2024年度自己点検・評価結果

2024年度における「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を構成する「データサイエンス教育」についての点検・評価を愛知学泉大学内部質保証委員会で行った。

1. 点検・評価に用いた資料等

- ①上記科目のシラバス
- ②上記科目の履修状況に関するデータ
- ③上記科目の履修学生の自己評価結果

2. 教育プログラムの履修状況、学習成果の把握・改善

2024年度より、1年生前期に必修科目として当該プログラムを開講した。

2024年度入学生からの科目でもあるため、収容定員に対する履修者数の実績としては低くなっている。履修状況については、今後、学年の進行に伴い対象学生が段階的に増加していくことが見込まれている。特に家政学部の特色を踏まえ、実生活や専門領域と結びついた学びの重要性が高まっていることから、本科目に対する関心や期待も着実に高まりつつある。今後の運用にあたっては、履修者の満足度や学習到達度の推移を継続的にモニタリングし、必要に応じて教育内容や指導体制の見直しを行う予定である。学習成果については、定期試験に加え、課題レポートや Google Classroom を活用した小テストなど、複数の評価手法を組み合わせることで、学生の理解度や習熟度をきめ細かく把握している。学生の学びがより効果的なものとなるよう、教育内容の質的向上と PDCA サイクルの実践を通じて、継続的な教育改善を目指していく。

3. 今後の実施に向けた改善計画

本学では、併設の愛知学泉短期大学との連携科目として開講しているため、学内での本プログラムの存在や目的については全学的に周知されている。

今後は、教育の質のさらなる向上を目指すとともに、特に本学の特色である「家政学」との関連性を重視し、学生が自身の専門分野において数理・データサイエンス・AI リテラシーの知識や能力をどのように活用できるかを明確に意識させる教育活動を展開していく予定である。そのためには、家政学に関連した具体的な実例やデータを活用した演習を取り入れ、栄養学・生活科学・保育学といった各分野で実践的に役立つデータ活用力を育成する工夫が求められる。このように、進路設計やキャリア形成と直結した実践的な学びを通じて、社会で求められる力の育成を目指していく。